

20

会 誌

故 菊池勘左エ門先生追悼号

第 20 号

昭和 55 年 5 月

卷 頭 言	会長 小林 貞 作	
故菊池勘左エ門先生を偲ぶ		
1. 菊池先生とわが生物学会	副会長 本 多 啓 七	1
2. 菊池先生の忘れられない思い出	二代会長 進 野 久五郎	3
3. 菊池ラインの思い出	三代会長 植 木 忠 夫	7
4. 菊池先生の思い出雑記	学会理事 坂 下 栄 作	8
5. 葉っぱに聞いてごらん	学会理事 長 井 真 隆	9
6. 菊池先生と佐渡のトキ	学会幹事 本 多 省 三	12
7. 佐渡ヶ島の印象	学会理事 大 野 忠 廣	14
○故菊池勘左エ門先生の業績集	坂 下 栄 作	18
	本 多 啓 七	
研 究 発 表		
1. 日本北アルプス周辺の風衝植生とその生態(第一報)	本 多 省 三	22
	本 多 啓 七	
2. 哺乳類の歯の性差について	坂 下 栄 作	35
野外研修会報告		41
本 会 記 事		46
会 則		49
会 員 名 簿		49
編 集 後 記		53

富 山 県 生 物 学 会



感謝状
故 菊池勘左エ門殿
あなたは天正四年に富山県生物
学会を創設され永年におり会長
として本学会の発展のために貢献
されました。その功績はまことに
顕著であり、ここに深甚な敬意と
感謝の意を表します。
昭和十五年五月十七日
富山県生物学会長 小林貞作

菊池勘左エ門先生の御功績を偲び、この追悼号を捧げて会員一同
心より先生の御冥福をお祈り申し上げます。

巻 頭 言

会長 小 林 貞 作

大正14年に富山県生物学会の前身である富山博物学会が創設されて以来、本年で55周年を迎えることになる。このような歴史と伝統を誇る本学会の会誌の発刊は、今回でちょうど第20号をかぞえることになった。これは会員諸氏と共に、まことに慶びに耐えない次第である。またこのことは、本学会会員諸氏の一致したご協力により、地道にしかも着実に歩んできた結果に外ならないと痛感している。

このような本学会の発展に、偉大な基礎をつくられたのは、初代会長菊地勘左エ門先生である。ところが惜しくも先生は本年2月9日逝去されたことは、まことに残念な次第である。先生は、生物学のご研究と教育に旺盛な活躍をされたことは周知の通りであるが、その高いご仁徳の人格には、常に敬意を払わざるを得なかった。ここにあらためて深く哀悼の意を表すると共に、われわれは先生のご人格に報いるため、生物学の各分野において、いっそうの活躍を誓うものである。

現代における生物学の進歩には目ざましいものがあり、日一日と生命科学の難問の扉が少しずつ開いていく昨今である。これに対処すべく、われわれも知識の吸収と新分野の研究に、英智を発揮しなければならない。

このたび本会誌第20号の意義深い発刊にあたり、決意を新たにしてこれを祝福すると共に、学会の研究活動は無限に続くものであるという認識のもとに、今後本会のいっそうの発展のため、ご協力を切にお願いする次第である。